



第45回市美術展

市民センターで、5月15日から6月2日にかけて第45回伊万里市美術展が『書』『写真・工芸』『絵画』の3期に分けて開催されました。



↑訪れた市民は、一つ一つ作品をじっくりと鑑賞しながら、作品から感じとったことなどを語り合っていました

写真・工芸部門の鑑賞に訪れた市民は「ふだんの見慣れた風景が、写真の撮り方によって、おもしろい見え方をしている」と楽しそうに話していました。

みんなが暮らしやすく

みんなを
考えよう
人権・同和問題
No.271

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

●問合先 生涯学習課人権・同和教育係 ☎23-3186

今から50年ほど前、地方のテレビ局で、日本で初めてとなる手話通訳つきの番組が放送されました。「多くの人にテレビを楽しんでもらいたい」という制作者の願いは、聴覚に障がいがある人と対話を重ね、工夫が加えられ、全国のテレビ局へと広がりました。現在は、音声に字幕がついた番組や、画面解説の副音声がついた番組もあります。手話通訳と字幕が同時に流れる番組も増えてきました。歩みは今も続いています。

私たちが暮らす社会には、普通に暮らすことを妨げるさまざまな『壁』があります。例えば、一見あたりまえに見えるテレビ画面にも、聴覚や視覚に障がいがある人、加齢や病気でその機能が低下した人にとっては、情報伝達を妨げる大きな壁があるのです。壁は、見ようとしなければ

見えません。「壁が見えないこと」と「壁が無いこと」とは違います。壁に気づき、無くすためには、不便さを感じている人との対話が必要です。「私たち抜きに私たちのことを決めないで」という言葉が示すように、個人の意欲は尊重されなければいけません。しかし、現実には「申し訳ない」「迷惑がられるのでは」という思いから、不便さを感じている人が声を上げられないことがあります。そんな時には、周りの人の『気づける心』と、行動するための『少しの勇氣』が大切です。そのためには、相手の気持ちを自分に重ねて考える『想像力』が必要です。この相手を想う想像力が、壁を無くす近道になり、やがてその道が、自分を含むすべての人が「暮らしやすい」と感じる社会へとつながっていくのではないのでしょうか。

郷土の文化財

●問合先 生涯学習課文化財係 ☎22-1262

伊万里湾カブトガニ繁殖地

伊万里の天然記念物シリーズ①

『伊万里湾カブトガニ繁殖地』は、平成27年に国の天然記念物に指定されました。

指定を受けた区域は、カブトガニが産卵する砂浜と幼生が成長するための干潟が、良好な状態で維持されていることに加え、カブトガニ保護団体が盛んに活動を行っていることなどが『カブトガニに対する保護意識が高い』と評価されました。

伊万里湾の中にあるカブトガニの繁殖地である『牧島地区多々良海岸』周辺では、例年7～8月にかけて、約500～600のカブトガニのつがい、産卵をします。

特に、令和3年と令和4年は、2年連続で平均を大幅に上回る約1500の数のつがいを記録しましたが、昨年は、471つがいと例年並みに戻



↑産卵をするカブトガニ

りました。つがい数が増えた要因が、これまでの保護活動の成果だったかどうかは、はっきりとは分かっていませんが、これからも引き続き調査・保護活動を継続し、見守っていくことが大切です。今年も、5月末頃と非常に早い時期に1つがいの産卵が確認され、昨年より多くのカブトガニが産卵に訪れることへの期待が膨らんでいます。